

**次世代車の車体修理には4段階ステップで臨む!!**  
メリハリをつけて実施する

- 第1ステップ 損傷診断** 次世代車は車体構造・材料・安全装備が異なり考え方を要する
- 第2ステップ 修理技法** ファイネスを誤解して自動車メーカーの修理方法にて修理する
- 第3ステップ 修理費算出** 「相場料金」ではなく「裏付ある工数」を使用  
工数算出の基本理解  
自社レーバレーの使用
- 第4ステップ 最終確認検査** 修理後の機能検査  
高速走行を含む走行確認  
自動エミシング車  
静的エミシング実施

## 磯部理事長に聞く



磯部君男理事長

最初にBSサミットニュースをご覧いただいている、国会議員の先生方を始め、関係省庁の皆様、損害保険会社様、ロードサービスアシスタンス会社様、そして協賛会社様におかれましては、日頃より、組合事業に対し、深いご理解・ご支援を賜り、改めて御礼を申し上げます。

# BSサミットの目指す「次世代自動車時代」に選ばれる企業とは

### 自動車メーカーの動向に注視し 来るべき未来への準備を進める

昨年4月1日に特定整備認定制度がスタートし、早1年以上が経過しました。かねてより推進してまいりました全組合員の特定整備認定(パターン3)取得に

関しては、順調に認定取得工場を増やしております。一方で、自動車の進化も著しく、今年3月には遂にホンダから自動運転レベル3の車両が発売されました。また、つい先日のニュースでは「自動運転車の目となるセンサー(LIDAR)の価格が開発初期の約7万ドル(日本円767万円)から現在は1/100の約700ドル(7.7万円)に下がりました。

### 次世代自動車の整備DTCと再設定作業

次に、電気自動車(EV)に関するニュースは毎日のように報じられていきます。ホンダは4月23日の会見において2040年にグローバルで電気自動車、燃料電池車の販売比率を100%にする目標を発表しました。トヨタも電動車のフルラインアップの一環として新EVシリーズ「TOYOTA bZ(トヨタビーズイ)」を発表、上海モーターショーにてコンセプト車両を初披露しました。一方、EVシフトの進む欧州連合(EU)では、EVの普及が進む



「次世代自動車時代」に向け 一致団結して邁進

「次世代自動車時代」に選ばれる企業とは、EVの普及が進む中、自動車業界は「CASE」と呼ばれる新しい領域で技術革新が進んでおります。自動車アフターマーケットに従事する我々車体整備事業者も同じように、「CASE」への対応が求められております。これからの時代は環境変化に適応した企業

### 脱炭素時代に向けて 進むEV普及

行政の欧州委員会が2035年に域内でのガソリン車など内燃エンジン乗用車の販売を事実上禁止する方針を打ち出すというニュースも報じられております。これにせよ「カーボンニュートラル」の旗印のもと、この数年間で一気にEV化が進むことは間違いありません。EVの普及が進む中、自動車整備事業者も同じように、「CASE」への対応が求められております。これからの時代は環境変化に適応した企業

「自動運行装置車の点検・整備に必要な情報が自動車メーカー等から入手できない事業場に対しては認定を与えられない」と明記されています。自動運転車の整備には、情報(自動車メーカーからの整備情報)・人(高度診断作業が出来る自動車整備士の事であり、電子整備に長けた人材)・設備(4輪ホイールアライメント、3次元計測器、スキヤンツールなどの診断計測機器や設備機器)の3要素が必要で、この3要素を駆使しながら総合的な作業が出来ると「新しいBSサミット」になる必要があります。

顧客視点に立った 新たなバリューチェーンの構築

最後に、特定整備により新たに認定が必要となったエミシングなどの電子制御装置整備における地域の事業者間連携が叫ばれております。このような背景の中、我々BSサミットは昨年8月20日にオートバックスセブン様と包括業務提携を締結し、それぞれの地域に合わせたカーアフターマーケットの新たなバリューチェーンの構築に向け全国各地で協議を続けております。多くの自動車ユーザーを顧客として事業展開するオートバックス店舗を通じて、我々の自動車修理

**業務効率があがる! BK.NS2で現場革命!**

安心 軽量新素材などの最新の修理方法を支援

環境 環境負荷と修理コストの低減

自動車钣金見積ネットワークシステム

**BroadLeaf BK.NS2**

株式会社ブロードリーフ 詳しい情報は こちらまで BK.NS2 検索 www.broadleaf.co.jp 資料請求 お問い合わせはこちら 0120-47-2610 受付時間 9:00~17:30 (土日祝・年末年始を除く)



BSサミット事業協同組合

2021年度 委員会紹介

2021年度もBSサミット事業協同組合では、6つの委員会と二世会の活動を通じて組合員各社のレベルアップを図ることで、お客様の利便性向上に努めてまいります。今号では、各委員会の活動内容及び委員メンバーの紹介を致します。BSサミットニュースをご覧の皆様におかれましては、引き続き各委員会活動へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

次世代自動車研究委員会

これからの時代、ますます自動車が変わっていく、我々業界周辺も様変わりするはず。次世代自動車研究委員会では、すでに始まっている時代の変革にどのように対応するかに焦点を当てて活動しております。特に自動車の電動化や自動運転化は時代の潮流であり、近い将来、今言っている「次世代自動車」が当たり前になる時が必ず来ます。それを踏まえた上で大事なことは2つあると考えます。まず、自動車の進化という大きな流れにどのように対応するかということ。もう一つは次世代自動車社会になっても我々車体整備事業者が、社会から必要とされ存

在価値を高め続けることです。我々の存在価値、すなわち社会から求められることは、昔も今も未来も、「安心・安全」であります。どんなに自動車が進化しても「安心・安全」をお約束するには、お客様に説明、提案をするフロントマン、実際に作業をする作業者が次世代自動車を熟知しなければなりません。次世代自動車研究委員会では全国の組合員が、これを実現する一助となるよう最新の情報収集と各種研修などを実施しております。また、今年度はフロント教育委員会とも合同で様々な企画を考えております。それらの活動が次世代自動車社会の貢献に繋がるよう今後も取り組んで参ります。

フロント教育委員会

ユーザーとの接点として重要なフロントの教育を展開する委員会です。ユーザーアンケートを実施し、実際のユーザーの声をもとにフロント

委員 長 奥谷文輝 (株式会社ガラー ジュモリ、奈良・和歌山支部)

委員 大畑輝義 (三菱自動車工業株式会社、北海道第一支部)

販売促進委員会

販売促進委員会では、今年度は活動方針を ①BSサミットモデル、利便性の向上と利活用の推進として、支部社長会で支部販売員が組合員の情報収集を行い、委員会で精査しております。

②協賛会社商品の取扱推進として、環境規制拡大による電動化や、自動

③協賛会社の拡充として、アンケート調査を実施し、組合員より情報収集を行っております。

④リサイクルパーツの利用促進として、提携サプライヤー様と意見交換を行い、キャンペーン企画を実施しております。

委員 長 浦彰彦 (浦車体整備工場有限公司、香川・徳島支部)

委員 磯部君男 (BSサミット理事長、株式会社中央钣金、千葉支部)

委員 長 熊本匡史 (株式会社初石钣金、千葉支部)

委員 長 松村真也 (株式会社リョウシン、三重支部)

委員 中神敏光 (株式会社陸自動車、愛知支部)

委員 五十嵐正 (和幸工業株式会社、千葉支部)

センター出し 位置出し  
ターゲット設置  
全てをこの1台で



ITS-01-SET

ADASキャリブレーション用  
ターゲットスタンドセット

※ターゲットシートは商品に含まれておりません





ターゲットスタンド設置場所が勾配でもレベル調整が可能。

ターゲット設置にレーザーを活用、作業を大幅に短縮!

ターゲットのレベル出しも可能。※別途三脚等が必要

エーミング作業の前にはホイール・ボディアライメント作業が必要です

CAR-O-LINER

ボディもダメージも選ばない

カートロニック・ビション2 X2/X3

業界最多:約17,000種の車両データを収録、あらゆる事故車に対応した究極のボディアライメントシステム

HUNTER

ホイールアライメントの新時代を切り拓く

ホークアイエリート WA670

最新鋭のカメラシステムは精緻でスピーディな作業を実現! 高い信頼と生産性を約束します



IYASAKA 本社/〒113-0034 東京都文京区湯島 3-26-9 TEL.03-3833-6110 FAX.03-5688-7074



# ロードサービス委員会

今年度もロードサービス委員会は、私と愛媛・中川委員、兵庫・手塚委員の3名で、お客様の事故・故障対応に必要不可欠なロードサービスにおいて、より良いサービスを提供するため、課題を顕在化させ、解決するための活動を展開してまいります。



委員長：森松和博（株式会社トータルカーサービスジャパン 久留米支店、福岡支部）



委員：中川恒男（株式会社中川自動車商会、愛媛・高知支部）



委員：手塚文之（株式会社あかつき、兵庫第一支部）

ロードサービス事業においては、年中無休・24時間態勢の維持が必要とされる一方で、働き方改革の名の下に労働時間の厳正な管理が求められる。そのため、適正な出勤料金をお支払い頂くべく活動を続けて行く

く事で、お客様に安心を提供する公共性の高い事業を継続して行けるよう努めます。また、現場で作業に当る隊員の方たちに有益な情報提供も積極的に行なっていきます。例えば、故障診断書の活用方法や、業界内で発生した事故や問題を共有することで、トラブルを未然に防ぐ努力をして参ります。

# 二世会

BSサミット二世会は、車体整備業界の未来を担う若手リーダーが集う組織です。二代目経営者に限らず、組合員各社の若手リーダーが入

会し、年間3回以上のセミナーを実施しています。セミナー以外にも、日常的な業務の中で出てくる疑問を解決したり、社内の福利厚生や人事評価制度など会社経営上の判断を迷うときの意見交換などを行ったりしています。今後も、激変する業界環境の中で、自社の5年先、10年先を見据えて活動してまいります。

# 広報委員会

広報委員会の活動目的である「BSサミットブランドの高揚」とともに「コンシューマからの入庫拡大を目的とした認知度向上」を達成していくために、効果的な広報活動を展開し、組織内と業界内、コンシューマへの情報発信を行ってまいります。



委員長：荒井保則（株式会社栄モーター、新潟支部）



委員：若松伸一（株式会社ワカマツ自動車、鹿児島支部）



委員：黒田誉喜（株式会社黒田モーター商会、三重支部）

具体的には、組合員の社内情報伝達や関係者様や損害保険会社様、協賛会社様への情報発信ツールとして、本部ウェブサイト（FacebookなどSNS含む）、BSサミットニュース、展示会への出展などを通じて「安心・安全な修理を提供する団体」であることを積極的にアピールしてまいります。また、カーゲアプラスなどのツールを推進することで、コンシューマとの結びつきの強化を図ります。広報委員会ではこれらの情報発信を一元管理することで統一的な広報展開を目指します。さらに、組合員拡充委員会と連携し、組合員拡充に必要な施策の検討やツールの制作を行ってまいります。

具体的には、組合員の社内情報伝達や関係者様や損害保険会社様、協賛会社様への情報発信ツールとして、本部ウェブサイト（FacebookなどSNS含む）、BSサミットニュース、展示会への出展などを通じて「安心・安全な修理を提供する団体」であることを積極的にアピールしてまいります。また、カーゲアプラスなどのツールを推進することで、コンシューマとの結びつきの強化を図ります。広報委員会ではこれらの情報発信を一元管理することで統一的な広報展開を目指します。さらに、組合員拡充委員会と連携し、組合員拡充に必要な施策の検討やツールの制作を行ってまいります。

# 組合員拡充委員会

車の高性能化が進み、先進安全技術を搭載した車の修理や整備はますます難しくなっております。しかし、このような状況下においてもBSサミットは、「皆様に安心・安全を提供できる車体整備グループ」として設備基準や技術水準を高度に保

ち、次世代自動車の修理や整備にしっかりと対応できる組織でなければ存在意義はないと考えます。組合員拡充委員会では、協賛会社様や損害保険会社様をはじめ、アフターマーケットに従事する企業・団体の協力を仰ぎながら広く業界内に

お声がけし、次世代自動車時代で勝ち残れる精鋭だけが集結する組織



委員長：藤野利浩（BSサミット副理事長、朝日自動車株式会社、福岡支部）



会計：深沢勇希（深沢钣金塗装株式会社、静岡支部）



運営委員：松橋徹（有限会社カーディレクターメフ、埼玉支部）



副会長：磯部友昭（株式会社中央钣金、千葉支部）



会長：若松伸一（株式会社ワカマツ自動車、鹿児島支部）

を目指して参ります。また、現在組合を挙げて推進している地域連携を促進する活動の中からも、BSサミットの理念に共感いただき共に行動ができる事業者にお声がけを行います。「皆様に安心・安全を提供できる車体整備グループ」を確立できるように、今後も積極的に活動を行ってまいります。



企画委員：金澤英樹（秀和自動車興業株式会社、埼玉支部）



企画委員：山本郷（有限会社山本自動車、岩手・青森支部）



企画委員：川口貴史（英貴自動車株式会社、兵庫第一支部）



企画委員：気賀澤信之（株式会社ポディーショップキガサワ、長野第二支部）



企画委員：奥村泰正（株式会社ポディーショップオクムラ、京都支部）

## BP経営マネジメントシステム

全国販売・保守サポート承ります！！

お問い合わせは下記へ

コグニ7で作成した見積書をベースに『工程管理』、『作業状況管理』、『売上粗利管理』、『担当者別売上管理』が実現します

【代車状況一覧画面】

【作業状況一覧画面】

【担当者作業状況画面】



# オートバックスセブンとの包括業務提携による 進む地域連携 具体的な取り組みがスタート



昨年8月20日にBSサミットとオートバックスセブンの包括業務提携が締結されて以降、全国各地で地域にあった連携の仕方について相互間で協議が進んでおり、その具体的な施策のひとつとして、7月7日にスーパーオートバックス・熊本東バイパスにて整備ビットリニューアルに伴うキャリブレーションエリア新設発表会が行われました。発表会には、株式会社オートバックスセブンから小林喜天巳社長が、BSサミットからは磯部君男理事長が来賓として出席し、「全国で様々な取り組みの形があるなかで、オートバックスの店舗に併設されたビットリニューアルエリアを利用するという今回の熊本の取り組みは先進的であり、全国のBSサミット組合員もとても注目しています」と、新たな取り組みに対する期待について言及されました。

**熊本のスーパーオートバックスが  
大型キャリブレーションエリアを新設**  
発表会に磯部理事長が来賓として出席



発表会で挨拶を行うオートバックスセブンの小林社長(上)と磯部理事長(下)



今回の発表会は、単に「スーパーオートバックス・熊本東バイパスで電子制御装置整備に係る新たなサービスを開始する」というアナウンスではなく、地域ならではの取り組みとして、外注作業の請負を行うこと、また設備の共用を行うことなども含まれており、BSサミット熊本支部のメンバーとは事前に情報交換会を開催していました。ここで着目すべきは、「360度キャリブレーションエ



「スーパーオートバックス・熊本東バイパスで電子制御装置整備に係る新たなサービスを開始する」というアナウンスではなく、地域ならではの取り組みとして、外注作業の請負を行うこと、また設備の共用を行うことなども含まれており、BSサミット熊本支部のメンバーとは事前に情報交換会を開催していました。ここで着目すべきは、「360度キャリブレーションエ

熊本で連携を推進する熊本オートバックス・金子社長(上)とBSサミット熊本支部・西村支部長

支店毎、個社毎など地域によって差はありますが、他の地域でも連携については協議が進んでいます。東京や福岡、千葉などではロードサービスに関する連携について協議が進んでいますが、またエリアによっては車検や板金の連携についても話し合いが行われているという話も聞かれています。もはや地域によって抱える課題が異なることは必然であり、例えばディーラーが立ち並ぶ都市部とディー

リヤ」の新設です。本来、車検や一般整備を中心に事業を展開するオートバックスにとっては利用頻度の高いものではありません。つまり、車体整備をBSサミットが、電子制御装置整備をオートバックスが担う、新しい連携を目指した取り組みであり、国土交通省が示した特定整備認定の飛び地や施設の共用を認めるというこれまでの分解整備にはない新しいルールを活用したモデルケース

**地域事業者との共用や  
外注請負で連携を進める**

当日、会場に来ていたBSサミット熊本支部・西村謙介支部長からは、「これまでのエミシング機材を各社で揃えるのは難しいので、県内にこのような施設ができたことはありがたいです。これから協議を重ねてお互いの強みを活かせるような連携が取れればと思います」と、今後の連携に期待するコメントを頂きました。

**地域により異なる形の連携**

杉並モーターズのロードサービス拠点としてスーパーオートバックスKODAIRA店を登録

## 国産車の80%以上に 対応可能な施設



新設されたキャリブレーションエリアは、車検整備対応用にホイールアライメーションエリアと、車体整備に係るブラインドスポットモニターや全方位カメラのエミシングに対応可能な「360度キャリブレーションエリア」からなっています。スキヤットールは、オートバックスオリジナル「nabob」を中心に、汎用では対応できない作業を行うために各メーカーの純正スキヤットールなどを揃えて対応、ターゲットも可能な限り揃えており、現行の国産車に限れば80%以上のキャリブレーションに対応していると説明がありました。

### 移動の進化で社会を変える、進化するモビリティサービス

**Scash**  
企業・従業員間カーシェアサービス

企業と従業員との間で社用車のカーシェアリングを実現するソリューションです。1台の社用車をビジネスとプライベートで使い分けるよう、クルマの稼働データとアプリの利用データ等から公私の区別を判定します。通勤はマイカー、仕事は社用車という「常識」を変革します。

**Mobility Passport**  
社用車・レンタカー アプリ

働き方改革により移動時間の更なる効率化やコスト最適化の観点から、社用車以外の移動手段を組み合わせて採用する企業が増えています。Mobility Passportは、アプリで社用車を予約でき、社用車に空きが無い場合は「レンタカーを手配」といったスムーズな移動体験を提供します。

**車両台数最適化  
モビリティミックス**

リース料・駐車場代・保険料など複数の費用が発生する社用車の稼働実績を分析し、社用車とレンタカーとの利用を組み合わせることでコストが最小となる社用車台数を算出するソリューションです。複数の移動手段を有効に活用することによる最適な社用車台数・コスト削減額を提案します。

**SMAS-Smart Connect**

**テレマ (コネクテッド)**

**Mobility Service Platform**

**共通マスタ**  
マスタデータの一元管理を実現  
モビリティ管理システム

住友三井オートサービスはニコビットレンタカーとしてBSサミットの会員の皆様と共に代車インフラの整備に連携して取り組んでまいります。

住友三井オートサービス株式会社  
東京営業第六部  
〒163-1434 新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティビル  
TEL: 03-5302-9893  
https://www.smauto.co.jp/



# 二世会セミナーをオンライン開催!

## 次世代自動車時代における車体整備業について

6月30日(水)、二世会セミナーの配信がBSサミット本部より行われ、29名のメンバーがオンラインでのセミナーに参加されました。二部構成で行われたセミナーは、まず第一部にBSサミット機部理事長から「BSサミット活動内容、今後を見据えた活動内容説明」というテーマでお話をいただき、第二部ではBSサミットチャーターメンバーの一人でもありBSサミット監事を務める浦部(浦社)の浦社長から「自社レパートの算出と見積り作成」に

ついて自社の具体的な事例を交えてお話しいただきました。



第一部講師：機部理事長

## BSサミットを支えてきた二人に聞く

### 第一部

一部でお話をされた機部理事長は「きたるべき次世代自動車時代」を勝ち抜くためには自動運行装置を含む認証取得が必要だと自動車メーカーから情報を入手できる体制を整えることの重要性について述べられました。さらには「様々な情報から推察するに、認証を得られる整備工場は日本全体でディーラーを含めてもわずか4%前後だろう」ということでした。

一方、自動車メーカーの動きにも注視が必要だと説き、トヨタがすでにクルマのソフトウェアを顧客にあわせてアップグレードする展開を視野に入れていること、その展開にとって相性の良い「KINTO」のようなサブスクモデルへと商流を変えてくる可能性があること、同じく「KINTO」で取り扱う中古車をリノベーションして再利用を自指すこと、さらにはポルポや白産が、EV車のオンライン販売を進めることに言及しました。これらはすべて自動車メーカーが顧客の囲い込みを始めるとに繋がっており、従来の「製販分離」の考え方から変化し、「LCA(ライフサイクルアセスメント)の観点からCO<sub>2</sub>排出量の管理がしやすくなる」と自動車メーカーの視点に立ったポイントの解説をされました。

二世会メンバーから設備投資について質問を受けた機部理事長は、「4輪アライメントがない工場では自動運行装置の認証は取れないだろう。この認証を

持たなければレベル3以上のクルマは、点検も車検もできない。選ぶのはメーカー側なので、選ばれる体制を構築しておくべき。数年間は汗をかかなくては」と激を飛ばされました。

### 第二部

二部の浦社長による「自社レパートの算出と見積り作成」では、レパートリーの見積りの話を通じて飯釜塗装という仕事の性質について考えるきっかけとなる講義が行われました。



第二部講師：浦監事

浦社長は自社の情報をまとめた66ページにも渡る資料を用意し、二世会メンバーもその本気を感じ真剣な面持ちで講義に臨んでおりました。

講義では、事故車修理を病気の治療に例えて「病気の患者を診断する時、まずは町医者が聴診器で診察をして、異常がある場合に設備が整った規模の大きな病院でレントゲンを撮る。そこで異常があった場合に大学病院などの専門医でMRIを撮って診断します。聴診器による診察だけで手術を行う人はいません。事故車修理も同じです。車検修理におけるMRIはホイールアライメントやボディアライメントです。しっかりと診断した上で修理をすべきです」と

診断の重要性についてお話をされました。

そのうえで浦社長は二世会メンバーに、「安心・安全な修理を提供するために妥協をしない」「車に生じた異常を修理できる工場(MRI)を備えた病院)になる」と激を飛ばされました。

最後に「二世会メンバーからの質問に対して一言、損害保険会社とばかり話をしすぎたと思う。もっとお客様とも向き合うことが重要なのでは」と仕事の本質に言及され講義を締められました。

### オンラインでの開催ではありましたが、二世会メンバーからは積極的に質問が投げかけられる白熱ぶりでした。後日集計したアンケートでは「経営者として強い覚悟と志を持って何が何でも切り切るんだ」と改めて感じました。「BSは常に業界の一步先をリードする団体でありたい、それを担うべき二世会としては頑張っている」と感じました。二世会メンバーにとって、BSサミットを支え続けてきた理事長や浦社長から、直接お話を聞くことができる貴重な時間であったことが伺えました。



二世会：若松会長

## 業界動向 ニュース

2021年4月に開催された上海モーターショーにおいて発表されたトヨタの新EVシリーズ「TOYOTA TAZA」は、そのパートナーにBYDの名前があったことは記憶に新しいと思われまふ。その中国企業「BYD」のEV乗用車試乗会が、オートアフターマーケット連絡協議会の主催で、7月15日(木)に東京都江東区の「A PIT AUTOBACS SHINONOME」リザーブ駐車場にて開催されました。試乗会は、午前10時30分から、午後13時から、午後15時から、3部制で行われ、総勢50名の参加者全員が、中国製のEV乗用車を公道にて試乗しました。

## BYD EV乗用車試乗会を開催

開は、2015年に京都へ移った上海モーターショーにK9型電気バス5台を納入したことを皮切りに、沖縄、岩手などに大型・中型バスの納入を進め、2021年4月現在、日本全国で53台のBYD製のEVバスが走っています。これまで、公共交通でしっかりと信頼と実績を積み重ねてきた同社ですが、今回の試乗会を足掛かりとして遂に乗用車の展開を進める動きを見せてきました。



BYDは日本ではまだ馴染みが薄いかも知れませんが、コロナ禍の煽りを受けた2020年にも新車販売台数が全世界で40万台を超える、テスラと世界トップを争うようなEVメーカーです。香港市場に上場する同社には、世界的な資産家ウォーレン・バフェット氏の投資会社であるバークシャー・ハサウェイが投資をしていることが知られています。もともと携帯電話のバッテリー電池を作る会社からスタートしている同社の強みは、「EVの心臓部」と言える電池を自社でまかなえることです。この点は、他の多くの自動車メーカーが電池メーカーと提携しないとEVが作れないことを考えれば、大きなアドバンテージといえます。

脱炭素を合言葉にEVの普及は確実に進んでまいりますが、その中にはBYDのような国内にディーラーを持たない新興メーカーも入ってくるのが予想されます。その中でどのようなポジションを取りに行くのか、情報の収集を欠かさずいち早く準備をすることが重要になると思われます。



「明日をひらく」デンゲンの技術

**DENGEN**

全自動フロンガス回収機 CS-YF134WS (2タンク型)

各種バッテリー完全対応充電器 BR-MAX70IS

D.Cインバーターホット溶接機 SW-VZ120

溶接

充電

Brain Max

アイドリングストップ MF/シールド、車中泊

フロン

RF6E PA6

HFO-1234yf

HFC-134a 兼用型

QRコード



**新点検基準  
10月1日施行**

道路運送車両法の一部を改正する法律、いわゆる特定整備認証制度が施行されて1年あまりが経過しました。これに伴って改正される新たな点検基準が、今年10月1日に施行されスタートします。新たに追加される点検項目は「OBD(車載式故障診断装置)の診断の結果」となることからOBD点検とも言われ、特定整備に関わる全ての整備事業者は新たな点検基準の知識が求められます。また、同日より、自動車検査の際に支払う法定手数料に、(独)自動車技術総合機構の技術情報管理手数料が1台あたり一律400円、追加されることとなりました。お客様へのご説明、自社ホームページ内のご案内も準備しておく必要があります。

**関東運輸局長認証  
普通自動車特定整備事業**

普通自動車(小型)  
普通自動車(乗用)

普通自動車(中型)(電子制御装置整備(自動運行装置を除く)に限る)

特定整備(分解・電子)認証事業者の認証標識。

**10月以降、保適交付の  
取り扱いにご注意**

まず、新点検基準が施行されると指定整備の取り扱いが変わり、保安基準適合証等の交付に影響が及びます。原則として、新点検基準施行後は、特定整備(電子)に係る認証を受けていない場合、保安基準適合証等を交付することはできません。ただし、特定整備には施行から4年間の経過措置が設けられています。このため令和2年(2020年)3月31日までにエーミングまでの作業を行っていた事業者は令和6年(2024年)3月31日まで保適の交付は可能です。一方、上記期間にエーミングまでの作業を行っていなかった事業者は10月1日以降、保適を交付することはできなくなるので注意が必要です。なお、電子制御装置整備に該当する装置を備えていないクルマについては、この限りではありません。

**留意点**

令和2年(2020年)3月31日までにエーミングまでの作業を行っていなかった事業者は、令和3年(2021年)10月1日以降保安基準適合証等の交付はできなくなります。

**OBDの診断結果を追加  
1年ごとに点検義務**

**対象車両:**  
大型特殊自動車、被牽引自動車、二輪自動車を除いた自動車

**点検項目:**  
「OBD(車載式故障診断装置)の診断の結果」を追加し、1年ごとに点検することを義務付け

**点検の対象となる警告灯:**

- ・原動機(異常)の警告灯
- ・制動装置(異常)の警告灯
- ・アンチロックブレーキシステム(異常)の警告灯
- ・前方のエアバッグ(異常)の警告灯
- ・側方のエアバッグ(異常)の警告灯
- ・衝突被害軽減制御装置に係る警告灯(自動ブレーキ)
- ・自動命令型操舵機能に係る警告灯(レーンキープアシスト)
- ・自動運行装置に係る警告灯

**留意点**

特定整備認証制度の流れを受け、点検基準の見直しが行われたことで、ともすると対象車は電子制御装置整備の対象と混同する声もきかれますが、大特、非牽引、二輪車以外のクルマが対象です。ただし、上記のADAS装置(下線)については電子制御装置整備対象車とリンクしています。

**道**路運送車両法の一部を改正する法律、いわゆる特定整備認証制度が施行されて1年あまりが経過しました。これに伴って改正

**OBD点検と整備の  
実施方法**


点検は主に目視にて実施し、警告灯の点灯・点滅がある場合は、故障探求を行い、適宜整備を行います。整備を実施する際は特定整備認証の条件に適合しているか確認してから実施する必要があります。

**点検の実施方法:**

① スキャンツールを用いる場合  
スキャンツールを車載式故障診断装置と接続し診断の結果を読み取ることにより点検を行います。

② 識別表示を用いる場合  
IG ONにした状態で診断の対象となる識別表示が点灯することを確認し、原動機を始動させます。そのうえで、診断の対象となる識別表示が点灯または点滅し続けていないかを目視により点検を行います。ただし自動車メーカー等の作成するユーザーマニュアル等により点検を行うこととされている場合には、その方法で点検を行います。

**整備の実施方法:**  
点検の対象となる識別表示が点灯または点滅し続けている場合は、スキャンツール等を使用してその原因となる故障箇所を特定し、少なくとも整備作業が適切に完了しなくなるおそれがある作業については、自動車メーカー等の作成する整備要領書に基づいて整備を行います。



**留意点**

点検の結果、故障が見つかり、その箇所が特定整備の対象装置に該当する場合、令和2年(2020年)3月31日までにエーミングまでの作業を行っていなかった事業者は、その整備を実施できない場合があります。

**離れた作業場、外注作業  
記録簿の記載方法に注意**

新たな記載が加わったのが、電子制御装置整備で、この場合、チェック記号を○で囲むなどして記録します。

**例** えば、衝突被害軽減制御装置のカメラを交換し、その後エーミング作業を行った場合、チェック欄に注釈の注などを記し、その他の点検・整備項目などの欄に詳細を記載します。交換を示すXの記号を丸で囲みⓧとし、同様に調整を示すAを丸で囲んでⒶと記載します。

車載式故障診断装置点検	その他の点検・整備項目
OBDの診断の結果 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">注</span>	ⓧ衝突被害軽減制御装置のカメラ
<b>日常点検</b>	Ⓐ エーミング

電子制御装置整備では離れた作業場や外注によるガラス交換、エーミング作業など、様々なケースが想定され、その都度記録簿への記載方法が異なってきます。また、BP事業者の場合、フロントガラスの交換を外注するケースは珍しくありません。その場合、特定整備記録簿には下記の通り記載いたします。

車載式故障診断装置点検	その他の点検・整備項目
OBDの診断の結果 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">注</span>	ⓧフロントガラス(内)
<b>日常点検</b>	Ⓐ エーミング

**留意点**

特定整備では外注や離れた作業場などにおいて点検整備記録簿の記載が別々になる場合が少なくありません。最終的にエーミング作業が適切に実施されているかをしっかり記録するとともに、その記載方法や外注元、外注先が交付する特定整備記録簿の取り扱いを明確にしておく必要があります。なお、従来の点検整備記録簿は「車載式故障診断装置の点検 OBDの診断の結果」項目を追加し、記録簿にある「分解」を「特定」に修正すれば10月1日以降も使用することは可能です。

※出典: 国土交通省 特定整備制度説明会、電子制御装置整備の整備主任者等資格取得講習各資料



月別リサイクルパーツ別実績 2021年5月～2021年6月(全国)

※その他＝エンジン・ミッション・ラジエーター・コンデ  
ンサー・コンプレッサー・フロントガラス等のリサイク  
ルパーツ(新品パーツは除く)

内 訳	2021年		合 計
	5月	6月	
	数 量	数 量	数 量
フロントバンパー	375	398	773
リアバンパー	268	287	555
ヘッドライト	507	524	1,031
ボンネット	167	164	331
フェンダー	405	419	824
ドア	606	620	1,226
トランクリッド・リアゲート	158	214	372
テールランプ	353	364	717
その他*	2,524	2,744	5,268
合計	5,363	5,734	11,097

BSサミット 販売促進委員会

# リサイクルパーツ普及拡大に向けて

## リサイクル部品は「グリーン購入法」の指定商品です

事故車修理時のコスト低減は、損害保険会社やユーザーにとっても、ますますニーズが高まっております。BSサミットでは、環境負荷低減とともに、こうしたコスト削減に寄与することを目的として、販売促進委員会を中心とし、自動車補修部品のリサイクル促進を進めています。今後とも積極的なリサイクルパーツの活用をよろしくお願いいたします。

「グリーン購入法」とは2001年4月に施行された法律で、環境の事を考え、環境負荷が小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先的に購入することを求めています。国の機関はグリーン購入に取り組む事が義務付けられ、地方自治体は努

力義務、事業者や国民にも一般的責務があると定められています。自動車リサイクル部品は「グリーン購入法」の指定品目となっていますので、積極的な推進が我々整備事業者の責務だと考え、引き続き普及の推進を行ってまいります。

# ストップ！粗悪修理！！

「ストップ粗悪修理」は、次世代自動車研究委員会や広報委員会を中心に収集している他社工場での粗悪修理情報を、BSサミットニュースやカーケアプラスなどのメディアを通じて公開しております。

不具合車両の撲滅とユーザーへ安心と安全を提供すべく、本来あってはならない修理不具合・不正修理の現状・実態を明らかにし、適切な修理を行うことの重要性を呼びかけております。今後とも主旨をご理解いただき「修理不具合情報」のご提供をよろしくお願いいたします。

## 不完全修理例① クリップが欠けたまま仮止め状態で放置！

本件は、事故によるリアバンパー損傷で入庫したクルマです。付随作業でリアコンビネーションランプを外してみたところ、本来あるはずのクリップが欠けてなくなっており、その部分のパーツは仮止め状態のままでした。大きな事故に繋がるものではありませんが、見えない部分だからといってこのような修理をされた工場の良心を疑います。お客様に伺いましたが、過去に該当箇所を修理した記憶はないとの事です。



## 不完全修理例② フェンダー内部のスポット溶接が適切に行われておらず穴が空いている！

入庫してきたクルマの損傷具合を点検中に発覚した不正修理の写真です。写真でも分かるようにフェンダー内部のスポット溶接が適切に行われておらず穴が空いてしまっています。

このような状態では、車体強度が確保されず万が一事故にあった場合に危険を伴うばかりか、穴が空いた部分から水漏れの原因ともなりかねません。このような不正修理を行う神経を疑います。



このような不具合車両をなくすために、皆様からの情報提供をお待ちしております。

### 4 Rサイクル

NGPでは、自動車に使用されている素材の再資源化により廃棄物を抑制し、環境負荷を低減、持続可能な社会の実現を目指します。

廃棄される車の取扱説明書から「環境教育ノート」を製作



環境教育ノートを通じて、「循環型社会・3R」の大切さと持続可能な社会に向けて「アップサイクル・廃棄物抑制」の重要性について学べる場を創ります



さらなるCS向上へ向けた  
リサイクルパーツの提案。

リサイクルパーツ発注システム  
Repairs Direct System  
リパーツダイレクトシステム (RDS)

皆様が、安心して「リパーツダイレクトシステム」をご利用いただけるよう「BSネットワークコールセンター」の専任スタッフがお客様にご発注いただいたパーツの適合確認をさせていただきます。正確な部品発注をサポートしております。

自動車リサイクル部品のお問い合わせは  
**BSネットワークコールセンター**  
Tel.052-441-7503 (平日9:00~18:00) Fax.052-441-7628

私たちは自動車リサイクル部品の活用で  
未来の地球を考えています。







# 積極的な設備投資で「お客様の役に立つ」



ゲート(出入口)やモニターカメラの設置など、徹底したセキュリティ管理(5)入りやすい雰囲気フロント入り口には、テュフや特定整備の看板が設置



出来る会社を目指しているという代目の山本社長は話します。

車のハイテク化に対応する先進の設備を導入

2005年に就任して以来、山本社長は積極的に設備投資を行ってきました。「自動車が便利、安全と言われるようになると、より高度な整備が求められます。お客様が当社で修理した自動車は安心安全だと思っただけで済ませず、最新の設備への投資を行ってまいります」と社長は自らの考えを明かします。

同社が重視するのは、「データ」に基づいた修理であり、最新の自動車においてお客様の安心安全を

「お役に立つ」を理念に 愛知県西部、名古屋市の南に突き出した知多半島の中心部、半田市に旭自動車株式会社はあります。約8250平方メートルの広大な敷地には、普通車钣金・修理工場の他、大型・建機・特殊車両の修理・板金を行う第2工場と塗装を行う第3工場を備えており、月に200〜250件の自動車修理を行っています。創業は昭和40年、50音でもアルファベットでも一番に出てくる社名ということで「旭自動車」と名付けられた同社は、創業以来50年以上に渡り钣金塗装にこだわった経営で知多半島の安全・安心に寄与しています。

## 地域に根差し



山本社長(左)と山本卓夫氏(右)

## 「交通事故のない社会をつくる」



次世代自動車の修理には欠かせない最新の機材が揃う

ジグ式フレーム修正機



四輪アライメントテスター/3次元計測器



エーミングターゲット各種

同社がBSサミットに入会したのは12年前、BSサミットのウェブサイトをみた山本社長が、磯部理事長の考え方に共感したことがきっかけだったと話します。しかし当時は、高い入会基準をクリアできず、すんなりとは入会でき

守るためには、「勘」と「データ」を融合した修理が重要になるとお話ししてくれました。その言葉通り、同社には「ホイールアライメントテスター」「3次元計測器」「ジグ式フレーム修正機(3台)」が導入されており、ミリ単位の修理とそれを証明するデータをエビデンスとして残すことが可能になっています。

## という想いが原動力

また、山本社長は現在、3代目となる山本卓夫氏への事業承継を進めており、同氏は二世会に入会し同じ境遇の仲間から情報を得ていると言います。お二人は、BSサミットの色々な情報を惜しげもなく教えてくれる風通しの良さについて言及されま



④工場内は明るく、キレイに整頓されていた(5)場所と特殊な技術を要する大型・特殊車両の修理にも対応。修理板金を行う第2工場と塗装を行う第3工場を構える

知多半島に根差し「交通事故のない社会をつくる」という想いで地域事業者と共に歩みを進める旭自動車のお話を伺い、特定整備をきっかけに今後は益々、地域連携が重要な時代が訪れるのだからと確信を持ちました。山本社長「地域のお客様の、ありがたさ」という言葉が仕事の原動力になる」という言葉にすべては集約されているのだと感じました。

理事長の考え方に共感し入会

ADAS搭載車の修理体制を整える そんな旭自動車がエーミングに

また「収益に繋がるかどうかではなく、地域のお客様の役に立ちたいでやっている、やることをやろうと、お客様に選ばれないなら、それはしょうがない」と、自動車修理に対する責任感と覚悟を窺い知れる想いを言葉にしました。

自動車の進化に伴う様々な法改正

自動運転やADASをはじめとした先進技術の実用化に向けて、政府主導で自動運転技術や運転支援技術の普及が進められていますが、今後も様々な法改正が予定されています。2024年からのOBD車検開始に向けたこの期間は、まさに100年に一度の大変革期ともいえ、整備事業者にも求められるハードルは益々上がりがつつあります。BSサミットは、日本の車体整備業界のリーディング組織として、時代の潮流を汲み様々な難局を乗り越えるべく、常に先を見据えた取り組みを行っています。

2018	4月 登録車OSS利用開始
2019	5月 軽OSS利用開始
2020	4月 改正道路運送車両法施行 電子制御装置整備認定開始 特定整備の経過措置の開始
2021	4月 特定化学物質規制等改正 10月 新点検基準施行 11月 国産車自動ブレーキ義務化 OBD車検プレテスト開始
2022	4月 高齢ヒューム温度測定等 1月 検査証の電子化
2023	10月 輸入車のOBD車検開始 (2022年10月1日以降の国産車も対象) 12月 経理生産車 自動ブレーキ義務化 (経理生産車とは異なった時点で 認定されている車)
2024	3月 特定整備の経過措置期間の終了 7月 輸入車自動ブレーキ義務化 10月 OBD車検 運用開始
2027	9月 軽トラック 自動ブレーキ 義務化

BSサミット

革命はここから始まる!

100年に一度の大変革期を  
ともに勝ち抜いていく  
志高きメンバーを募集しています。

BSサミット事業協同組合  
TEL:03-3538-2900 E-mail: honbu@bs-summit.co.jp  
http://www.bs-summit.jp